

大藪遺跡発掘調査現地説明会資料

1999年11月20日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

大藪遺跡発掘調査現地説明会資料

場 所	京都市南区久世大藪町
期 間	1999年7月30日～継続中
調査面積	B1区：約900m ²
調査主体	(財)京都市埋蔵文化財研究所

1、調査の経過

今回の調査は、街路建設工事（向日町上鳥羽線）に伴うものです。1997年度から継続して調査を進めており、今年度は久世中学校の南側にある水路から大藪街道付近までが調査予定になっています。現在は予定地の東側に調査区（B1区）を設定して調査を進めています。今後、西側の調査を進めていく予定です。

2、調査地周辺の歴史

今回の調査現場のある大藪町一帯は、縄文時代から室町時代に至る、大藪遺跡の範囲に含まれています。

弥生時代には、現在の久世中学校付近から南に大きな河川が流れていたと考えられています。昨年の調査では、この河川の西岸で弥生時代後期の集落や墓域の一部が発見されています。また、1987年の調査では今回の調査区の北側で竪穴住居跡がみつかっています。

奈良時代にもこの河川は存在し、久世中学校構内では護岸に用いられた大量の杭がみつかっています。また、ここは長岡京左京域のほぼ北端にあたり、河川の周辺では人形ひとがたや人面じんめん墨ぼく描びょう土器などを使った祭祀が行われていたと考えられています。

鎌倉時代から室町時代、大藪町一帯はこが久我家の荘園でした。この時期の遺構（掘立柱建物や井戸、溝など）が周辺で確認されています。

3、調査の状況

今回の調査では弥生時代と平安時代から桃山時代、江戸時代の遺構がみつかりました。

弥生時代の遺構

中世や近世の遺構と重複していてよくわかりませんが、竪穴住居の一部と考えられる柱穴どこうや土壙を確認しています。

平安時代後期から桃山時代の遺構

今回の調査地では弥生時代以降しばらく人の住んだ痕跡はありません。その後、平安時代後期には再び人が住み始めたようです。この時期の建物はよくわかりませんが、井戸がみつかっています。

鎌倉時代も似たような状況が続いたと思われます。

室町時代にはいると、多くの建物や井戸、土塋、堀などがつくられています。これらの遺構は調査区の西側にある河川、東部にある南北方向の堀、北部にある東西方向の溝によって区画されているようです。東部の堀と北部の溝は条里の坪境と考えられ、条里制の土地区画がなされているようです。しかし、室町時代後半になると、まず北側に宅地が広がり、続いて桃山時代には東側の堀を付け替えて、東側にも拡大しています。

江戸時代の遺構

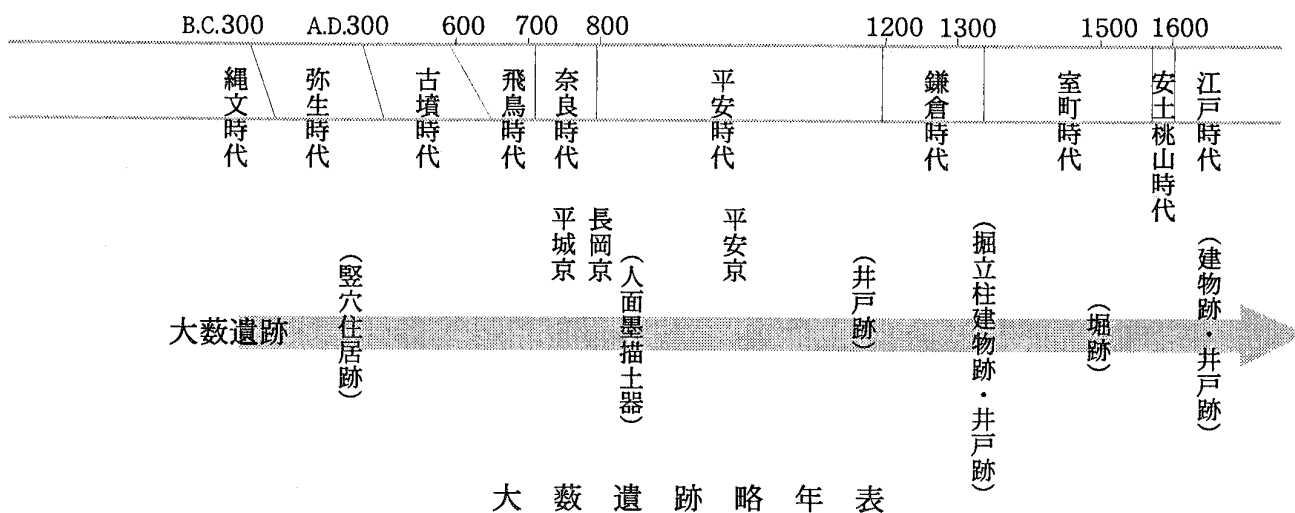
調査区はほぼ中央にある南北方向の溝によって東西に2分されています。東側には建物や井戸がありますが、西側には認められません。西側は畑や竹藪などとして利用されたようです。

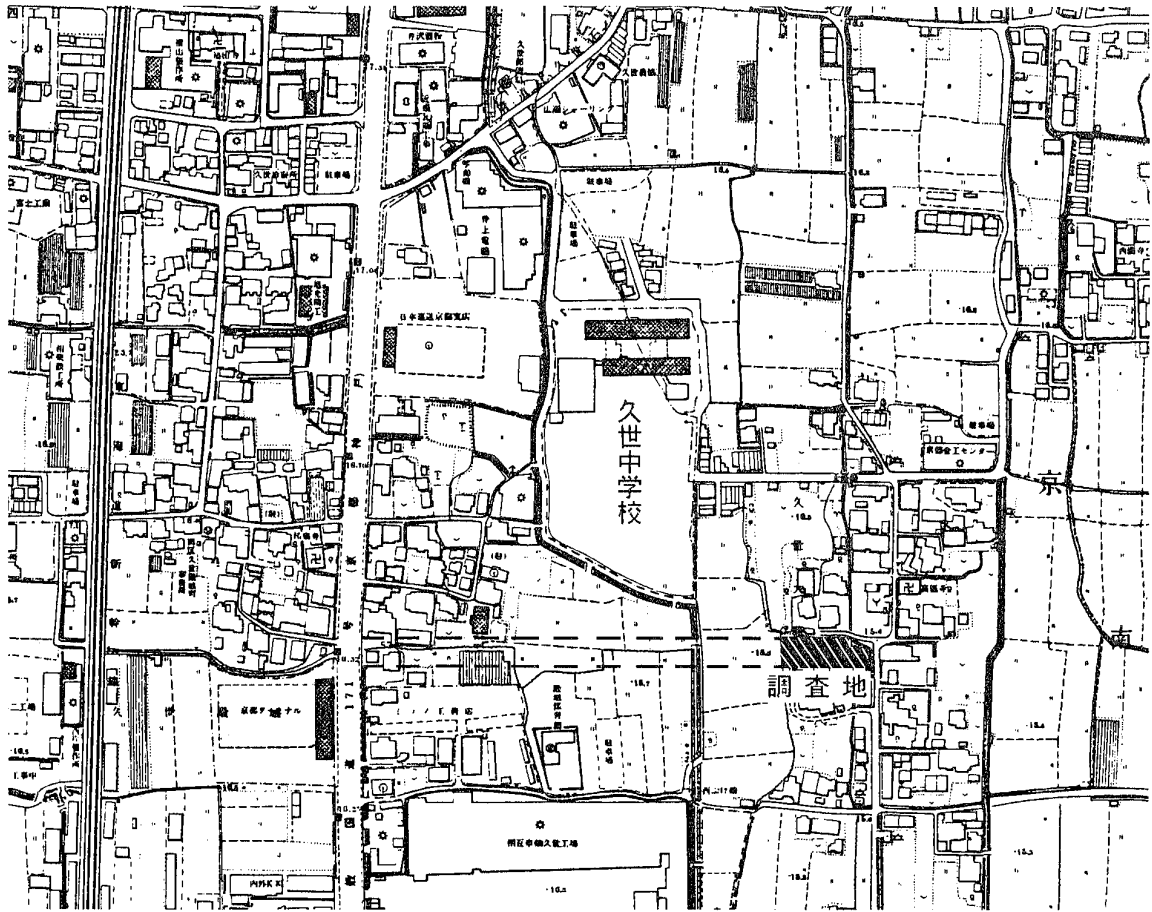
4、まとめ

今回の調査の成果は、弥生時代の遺構と平安時代後期から江戸時代の遺構が見つかったことです。

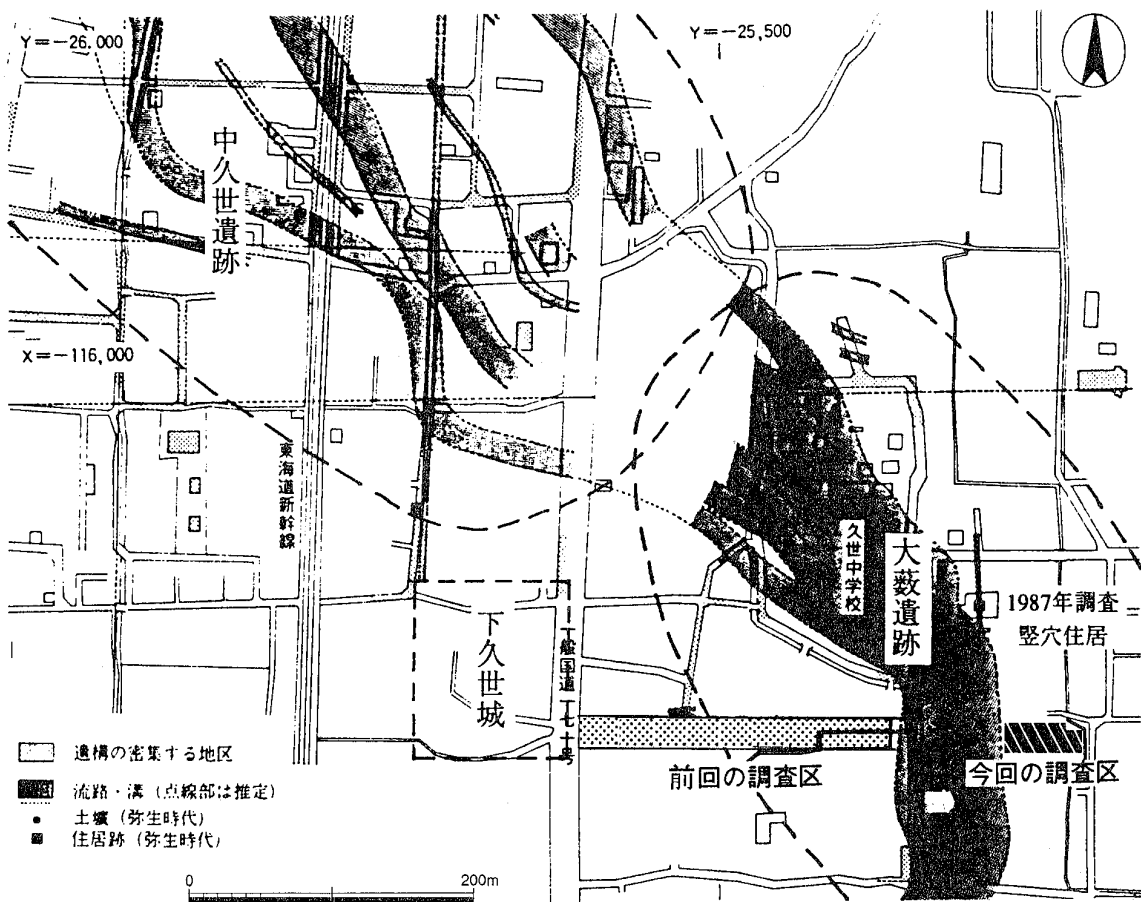
弥生時代の住居と考えられる遺構の発見によって、久世中学校付近から流れる河川の両側には集落が広がっていたことがわかりました。

また、平安時代後期から江戸時代までの建物や井戸が見つかったことで、大藪の集落の起源や変遷の様子をうかがえる資料が得られました。

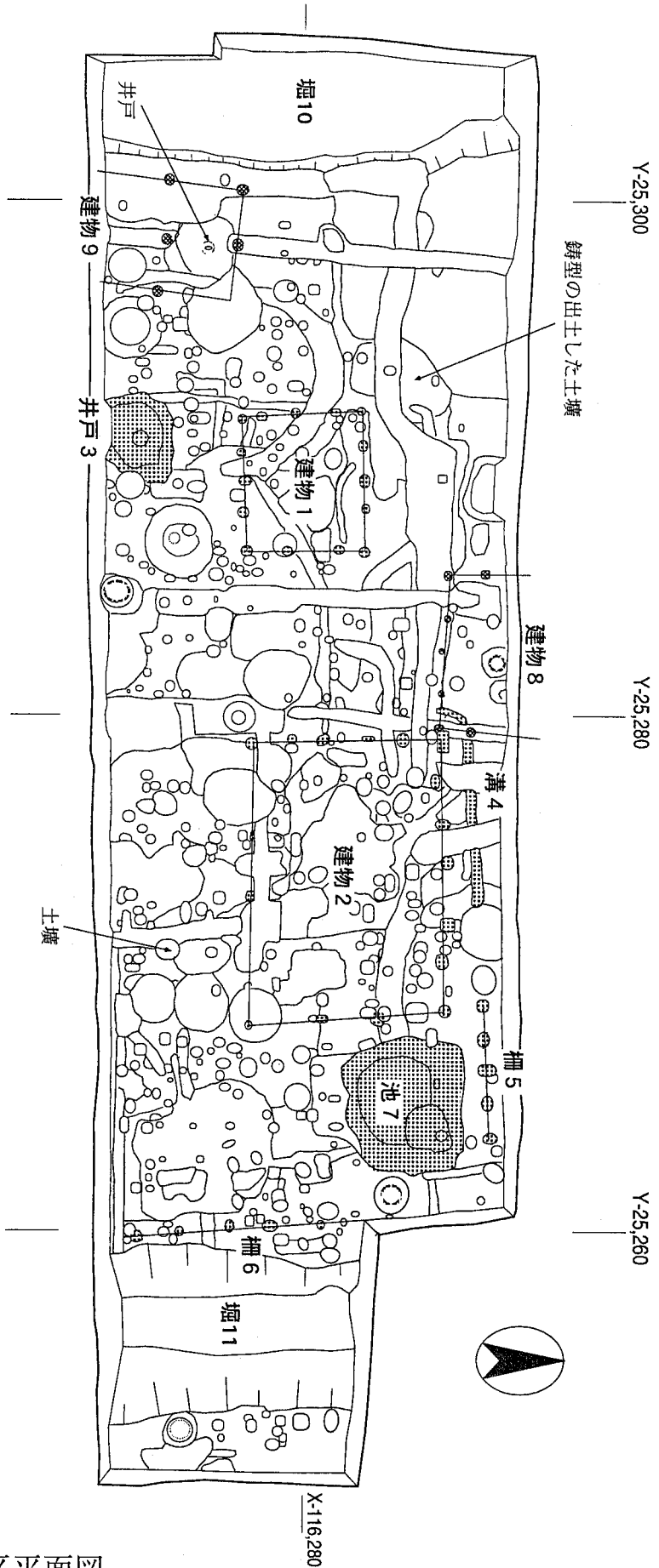




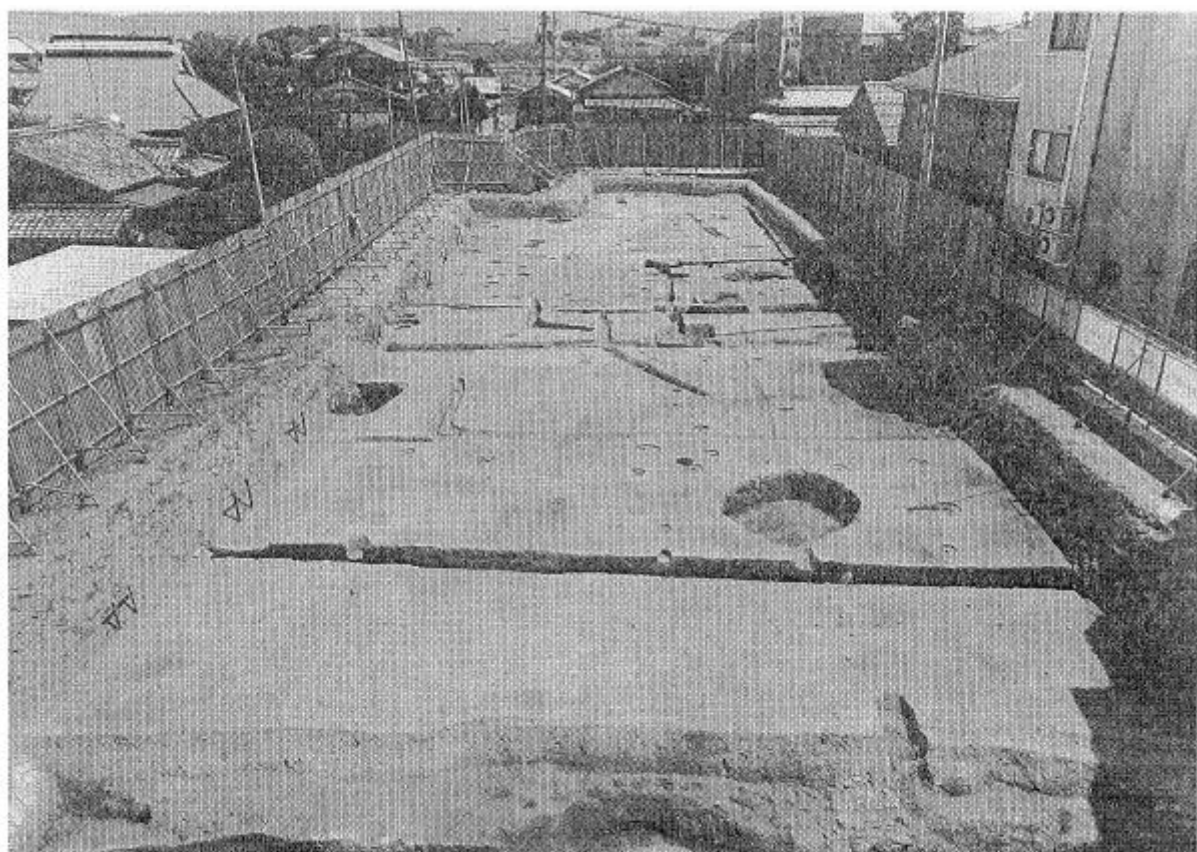
調査位置図 (1/5,000)



調査地周辺の遺構分布図 (1/5,000)



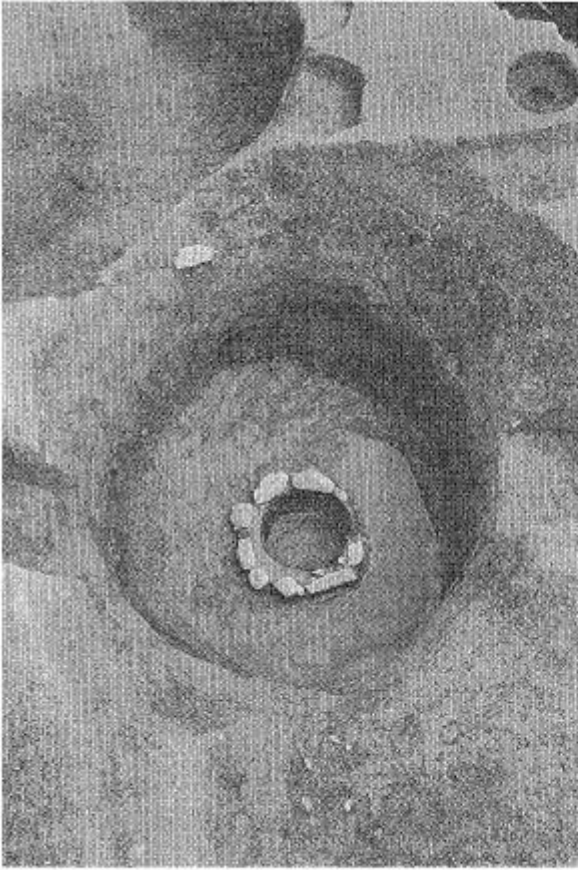
大藪遺跡B-1区平面図
S = 1 : 250



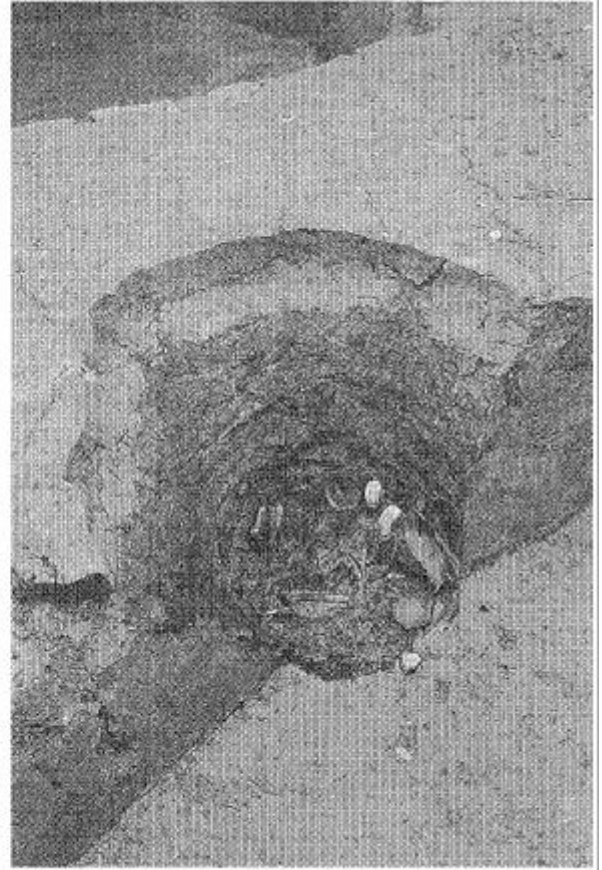
近世全景（西から）



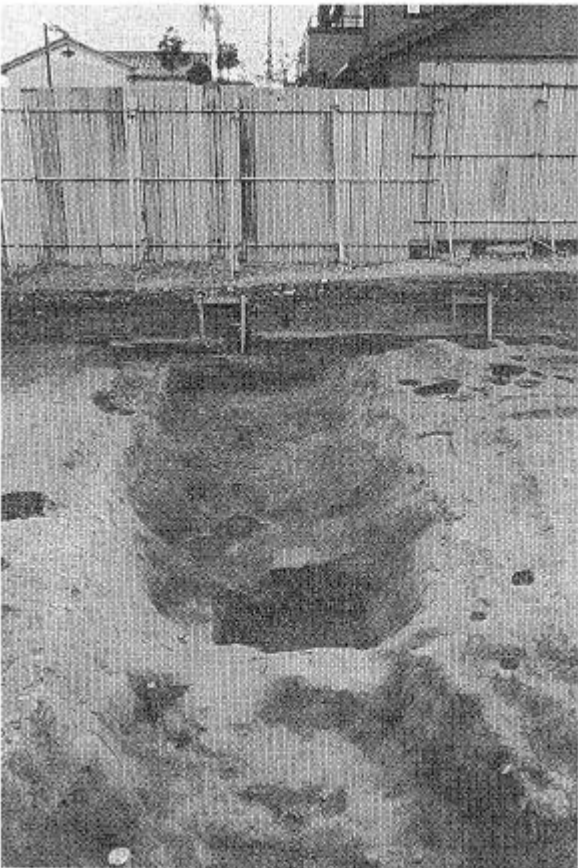
中世全景（西から）



井戸（中世）



土壙（中世）



堀11（北から）



鏡の鋳型出土状況（中世）